

石造肥前鳥居 天正十八年の銘あり
(せきそうひぜんとりい てんしょう18ねんのめいあり)

～唐津市巖木町巖木 室園神社～

室園神社は、天正2年（1574）11月、獅子ヶ城主鶴田越前守が蔵王権現をここに奉ったことに始まるものとして伝えられている。

この神社の長い石段を登って行くとその中程に、小さな石造の鳥居が建っている。高さ2.38m、笠木の長さ2.74mである。笠木、島木、および貫はともに3本継、柱は2本継である。県内には、地方色の強い石造肥前鳥居が広く分布しているが、そのなかでもこの室園神社の鳥居は、最も古い造立銘を有する。次のような銘が陰刻されている。「願主 鶴田上総介源賢天正18年寅庚11月吉日」

また、神殿に石造狛犬が1対置かれているが、これも鶴田上総介が奉納したものであり、県内で最も古い造立銘を有する狛犬として貴重である。

昭和39年5月23日指定

唐津市巖木町巖木 室園神社

建造物

分野 歴史

地域 巖木

◎地図・写真・統計資料など



肥前鳥居

(『佐賀県の文化財』より)

◎引用・参考文献（出典）

◆『佐賀県の文化財』

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：
http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html